

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590100444		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホームクローバー2番館		
所在地	宮崎県宮崎市新別府町前浜1401-288		
自己評価作成日	平成24年7月27日	評価結果市町村受理日	平成24年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100444&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100444&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年8月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

宮崎市近郊に位置し、近くには大型ショッピングセンターなどの商業施設も多くあります。また、公園や神社も近くにあり、散歩のコースとなっています。併設施設として有料老人ホーム、グループホームもあります。利用者様の毎日のゆっくりとした時間を職員も共に過ごし、コミュニケーションを多く取りながら、笑いの絶えない生活をして頂いています。ベテランの職員も多く、利用者様のペースでゆとりのある介護を行っています。また、平成24年7月からは医療連携体制を導入することにより、利用者様が馴染みの場所で、安心して最期を迎えて頂けるような環境作りを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの廊下は広く、床材に木が使われて木目が美しい。天窓があることで明るく、談話室も設置しており、利用者、家族が楽しく利用できるようになっている。庭は花壇があり、よく手入れされており、ウッドデッキから天気の良い日は外に出て、庭の花などを楽しめる。おやつは2週間に1回、買い物に行き、利用者と一緒に好み焼きやだんごなどを作り楽しんでいる。利用者の希望により、故郷や生まれた家を見に連れて行っている。また、知人との交流も継続がなされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別に、施設独自の理念を全職員で作成し、掲示してある。職員は、理念を見て自分で言い聞かせることで、自己確認を行い、利用者の生活歴を把握して、自立に繋げる言葉掛けを実践している。	利用者本意に、職員のペースで動かず、見守る介護で、優しい口調で声かけなどの理念があり、理念と違った介護を行っていた場合、介護会議で理念を確認し、職員間で共有をはかり、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難・火災訓練の近隣住民の参加時や日常生活に散歩や買い物などに出掛け、地域の人達と挨拶を交わしたり、併設事業所との行事に参加して、地域住民と一緒に会話を楽しんでいる。	保育園児と花植えやゲームを行ったり、併設の事業所の夏祭りに参加して、地域の方と交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(2ヶ月に1回)の時に、民生委員の方や地域の方の話を聞くなどして、必要があれば助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、民生委員等からの情報や協力もあり、避難訓練の要望などの積極的な意見が出され、運営に反映している。	会議の内容は記録し、出た意見等は介護会議で検討し、運営に反映されている。また、今回の外部評価についても報告する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営や地域への働きかけ等を検討する際には、電話やFAXで市の担当者に報告し、運営推進会議時に積極的に相談して、サービスの向上に取り組んでいる。	市の担当者に、認定情報をもらいに行ったりして、積極的に連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は自動施錠式になっている。職員はこれが身体拘束になることは理解している。しかし、ホーム、リビングのウッドデッキからの通路は日常的に開放されており、外には出れるようになっている。また、月に1回、第1木曜日は、11時から13時の間は玄関の自動施錠をoffしている。	利用者が外に出た時は、付いて行き、時間を見て一緒に帰っている。しかし、玄関には通常鍵がかけられ、月1回、2時間だけ開放している。	利用者の心身の状態や外に出ていく場面、理由を把握したり、見守り体制を工夫するなどして、玄関を開放する時間帯を多くすることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの資料として存在しており、職員がいつでも目を通せる場所に置いてある。同じ資料を職員全員に配布している。また、毎朝の申し送りや月1回の介護会議等で、ケースに応じて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルの資料として存在しており、職員がいつでも目を通せる場所に置いてある。同じ資料を職員全員に配布している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書や重要事項説明書を読み上げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席の家族や来訪者の家族から、積極的に話を聞いている。また、意見箱を設けている。出された意見、要望は誠実に受け止め、職員間で話し合い、改善に努めている。	家族などから出た意見、要望などについて、介護会議や朝のミーティングで話し合い、運営に反映し、家族にも伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、代表者や管理者に意見や提案を率直に言える環境にある。業務改善アンケートが職員に配布され、双方向の関係が構築されている。	代表者と職員の個人面談が年1回あり、意見など言える機会がある。また、管理者は、管理者会議で職員の要望などを代表者に言える機会があり、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回の管理者会議での報告や年1回の職員個人面談等を行い、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宮崎県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修に参加している。また、会社全体の研修も2カ月に1回程度行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に参加。また、別の法人の勉強会や交流会に参加する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から得られる生き立ち等の情報や家族の面会時の情報等、生活を共にする中での喜び等、共有を行い、笑顔ある生活となるよう受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の状況確認を行い、面接や電話等を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望、本人との会話の中で情報を汲み取り、アセスメントを職員全員で行い、サービス担当者会議で話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、お茶や昼食等の時間を利用者で行い、コミュニケーションを図る機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時やサービス担当者会議の際、本人の状況報告・相談・必要時には、電話等を行いながら、本人を支える協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が家族や知人と手紙のやり取りをしたり、遠方にいたことのある利用者には、職員と一緒に今までの住まいのことや写真等を見て、住んでいた地域の話を取り上げ、利用者の大切な関係を維持する支援をしている。	利用者が生まれ育った故郷を訪問したり、病院受診の帰りに自宅を通ったりしている。また、知人がホームに来訪し、交流が行われ、関係が継続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりのペースを大切にしつつ、毎日のお茶やレクリエーションの時間に、他者とコミュニケーションを図る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者やその家族からの相談には、随時対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を使った記録を確認しながら、利用者に寄り添うケアの中で、本人の生活歴や趣味などを把握している。	思いや意向を本人、また、意思の疎通が困難な方は家族から聞き、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方の継続する生活支援の為、家族や関係者から、本人の状況、経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること、出来ないこと、心身状況を把握して、出来ることを維持していけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護会議や毎朝の申し送り、申し送りノート等で、本人や家族の意見を収集し、本人の気持ちに沿ったケアを実践しており、各記録と介護計画が連動し、評価を次の介護計画に反映している。	本人、家族から意見を聞き、職員と介護会議で意見交換し、計画書を作り上げている。3か月ごとにモニタリングを行い、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や介護日誌、申し送りノート、職員間の日々の申し送り等で状況を共有し、サービスを実践、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の誕生会や併設の施設との合同イベント(夏祭り等)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への地域包括支援センターや民生委員、地域の方の出席、また、近くのショッピングセンターの利用、神社への散歩等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医の往診もあり、安心して適切な医療を受けられる体制が整っている。	受診の付き添いは家族が行うが、都合の悪い時は職員が対応し、報告も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師は配置していない。協力医の看護師や訪問看護の看護師と連携を取って、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、情報提供書にて情報の共有を行う等、安心して過ごせるよう配慮し、また、随時病状を把握し、退院後のケアについても相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化が見られた時、安心して納得した終末期の対応が出来るように、家族や医療関係者と話し合い、同意書を作成している。また、事前にアンケートを行っている。	今年7月に看取りを行うことになり、利用者、家族に説明して、看取り介護の同意書を取っている。また、緊急時、終末期についての事前確認書も取り、情報の共有と支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、ケースケースで主治医と連携を図り、対応している。9月に会社の全体研修として行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した火災訓練や津波訓練を行い、第1避難所を併設事業所の2階、第2避難所を近隣のショッピングセンターの3階、最終避難所を地域の中学校に指定している。訓練には、近隣の住民の参加や併設事業者の協力も得られている。	マニュアルが整備されている。火災、津波訓練も行われ、地域住民の参加もあった。しかし、地元消防団の参加がなく、非常用食料の備蓄もない。	火災訓練に消防局の協力がなく、自主訓練で行われている。地元消防団への協力依頼や非常用食料の備蓄も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録類は定置に保管しており、利用者や家族の了解を得た利用者の氏名で呼んでいる。利用者の人権やプライバシーの保護を理解した声掛けに心掛け、敬意を持って支援している。	朝礼や介護会議で、プライバシーについて、具体的に確認する取組が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が、気兼ねなく自分の思いや希望を話せる雰囲気を作り、個々に合わせた説明、言葉かけを行い、支援、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭のような生活、家庭の継続というホームの方針で、一人ひとりの状況に合わせ、その日、その時の本人の希望に沿った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は2カ月に1回、移動理美容車、来訪に行っている(希望者)。化粧品等は、家族に購入して来てもらったり、職員と一緒に買いに行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後の一連の流れは、職員と利用者ができることを一緒に行っているが、検食者以外の職員は、外部委託の食事を注文することもあるが、弁当持参である。月に1回のイベント食の日は、職員も利用者と同じものを注文して、一緒に食事をしている。	検食者が一緒に食べ、職員は弁当を持参して、介助しながら食べている。2週間に1回、買い物に行き、おやつを利用者と作っている。食事は、母体事業所より運ばれ、提供されている。来月からは、月1回、ホームで昼食を作るようにしたいと計画である。	食事に関する一連の作業とおした利用者の力の発揮や会話を増やし、楽しく食事をしながら、利用者の希望や思いをくみ取るコミュニケーション、関係づくりの場ともなるので、できることを一緒に行いながら、同じテーブルを囲む機会を増やしていく取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託会社の栄養士によるカロリー計算等が行われている。個々により食事の形態を変更したり、病気等によって、カロリーの計算がなされている。また、食事の摂取量のチェックや個々により水分のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせて、口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄パターンの把握に努めている。利用者の生活リズムに沿った排泄支援を行っている。出来るだけトイレで排泄出来るよう、紙オムツの方も声掛け等で本人の訴えがあった時はトイレ介助している。	排せつチェック表を使用して誘導したり、日中、オムツの利用者もトイレで排せつを行えるよう、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、排泄チェックを行い、水分補給や軽い運動、散歩等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、一人ひとり支援している。希望があれば柔軟に対応し、いつでも入浴が楽しめる。	入浴は、週2回であるが、利用者の希望に合わせて一日おきに入ったり、夕方に入る方もあり、柔軟な対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり就寝時間がバラバラ。好きな時間に就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに綴じ、ホールで職員がいつでも目に出来る場所に置いてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換にドライブ、散歩、買い物介助等を行っている。 大正琴を楽しんでいる利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近辺の神社への散歩や大型ショッピングセンターに買い物に出かけたり、ドライブを楽しんだりするなど、利用者の行きたい場所や懐かしい場所への外出支援を行っている。	近くの海岸や市民の森、文化の森などにドライブに出かけている。また、病院受診の帰りに、うどんを食べて帰るなどの外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を所持している方 1名 ・普段は事業所で預かり、買い物時に使う方 2名		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がリビングのソファに座って、松林や行き交う車をゆったりとした気分で眺められるようになっている。ウッドデッキから庭に出て、日光浴や菜園・花の手入れもでき、壁には季節ごとに利用者で作った作品が飾られ、家庭らしく落ち着いた居心地のよい場になるように工夫している。	床材に木が使われて木目が美しく、談話室や天窓があり、廊下は広く明るくなっている。また、庭は手入れされた花壇やウッドデッキもあり、天気の良い時は日光浴をしたり、庭の花々を楽しめるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はテーブルとイス、ソファを置いて設けてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで自分が使っていた懐かしい持ち物が置いてある。また、季節行事で作った飾り物も飾られ、安心感ある居心地のよい居室づくりがなされている。	たんす、化粧台、家族の写真、人形などが持ち込まれて、居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっており、その時の入居されている利用者に応じ、はり紙等を行い、分かりやすくは利用できるようしている。		